

顔の見える木材供給体制構築事業

事業実施主体

(一社)林業機械化協会

(一社)国産材を活用し日本の森林を守る運動推進協議会

【テーマ】持続性確保木材流通のための立木取引システム(マッチングの場)の構築

背景と目的

【背景】

- ・国産材の活用は進んでいるが価格低迷で再造林が進まず、森林経営の持続性が危惧される
- ・環境を意識する需要側とそれに応える供給側との出会いの場がない

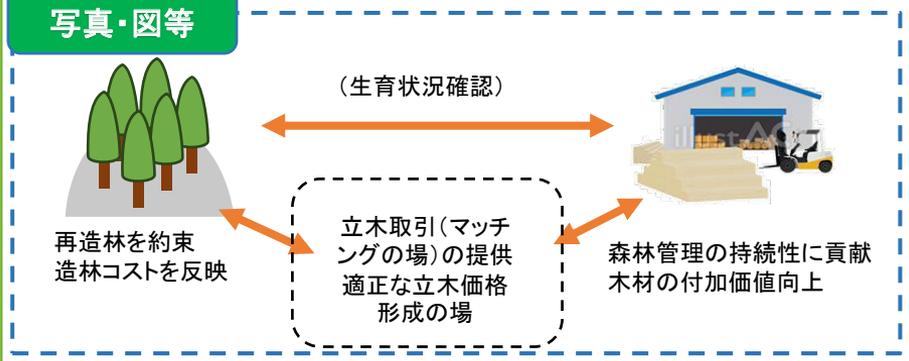
【目的】

- ・再造林コストを直接的に反映させた立木取引システムを構築し、持続性を確保した木材の安定供給と森林所有者の経営意欲向上を目指す

対象とする木材・製品、川上から川下までの流通の考え方など

- 森林所有者は伐採後の再造林を約束し、そのコストを反映させた予定価格で取引システム(マッチングの場)に出品
- 需要者は環境配慮が確認された木材を立木取引システムから調達
- 再造林は森林所有者が行い、需要者には生育状況が確認できる体制を提示する

写真・図等



実施体制・参加団体等

(一社)林業機械化協会

事業の計画、実施、報告書のとりまとめを行う

(一社)国産材を活用し日本の森林を守る運動推進協議会

国産材利用にかかる専門的な知識に基づき、有識者委員会の運営等を行う

事業内容(本事業における具体的な実施項目)

- ①有識者委員会による検討
課題(提示する情報、出品等のルール、法的問題等)の整理と事業の進め方を検討
- ②立木取引システム(マッチングの場)の構築
ネット上で仮システムを構築
条件が整っている個所を対象に取引を試行
- ③出品者が準備する立木情報のICT活用
ドローン、360度写真、GNSS測量などを活用し立木情報を合理化
- ④出品者・買受者への働きかけ
立木の出品が可能な森林所有者の情報収集
持続性木材を求める需要者側の動きを把握
- ⑤持続的な森林経営の確認手段
伐採位置情報からネット上の衛星画像で植栽状況を確認するなど簡易な確認手段を提案
- ⑥その他
報告書のとりまとめ

スケジュール

7月

有識者委員会
立上げ

8月

課題の整理
事業の組立て

9月

事業実施
(調査・システム構築)

10月

事業実施
(試行・情報収集)

11月

事業実施
(試行・情報収集)

12月

事業実施
(とりまとめ)

1月

報告会実施
報告書作成